

## 26号 第3回やどかりの里の原点を学ぶ学習会 やどかり研究所主催

講演 等身大の自分が受け入れられる新たな世界を求めて

地域の精神保健福祉の活動の原点は何だろうか。自分たちが必要とするからこそ活動は生まれ、発展していく。

この学習会は、やどかりの里の活動の原点である「ともに活動を創り合っていく」精神とその精神をもとに活動を作ってきた歴史をもう1度見つめ直し、共有しようという主旨で企画された。まず、やどかりの里の創設期に関わった人々の活動から学ぼうという意図で、第1回目は、家族であり職員でもある志村澄子氏の活動を、志村氏とともに活動してきた柳義子氏との対談から学んだ（響き合う街でNo.24掲載）。第2回目は、やどかりの里会長の谷中輝雄氏の活動を学んだ（本号掲載）。

第3回目の今回は、2003（平成15）年5月24日、やどかり情報館2階ホールで行われた。柳義子氏や谷中輝雄氏と病院の中で出会い、やどかりの里創設のきっかけになったメンバー故・宮千代芳子氏の活動について柳氏が語った。同病の仲間との出会いから等身大の自分を受け入れ、希望を捨てずに自分の生き方を切り開こうと仲間とともに活動していく宮千代氏の姿に、精神保健福祉活動の原点がある。